

## 主 題：ユダの勧め⑦

## 聖書箇所：ユダの手紙 22-23節

教会の中に偽りの教師たちが入り込んで来ました。彼らの教えによって、また、彼らの生き方によって、教会は大変な困難を経験していました。その中であってどのように歩むべきなのか？そのことをユダは教えてくれています。どんなことがあっても、救いに与ったキリスト者として主の前を正しく歩み続けていくためには何をすべきなのか？私たちが神に喜ばれる者として歩み続けていくためには何が必要なのか？それをユダは私たちに教え続けているのです。

彼が先ず初めに言ったことは、(1) どんなときにも神のおことばに立ち続けること、あなたの信仰の土台は神のおことばでなければならないということでした。いろいろな教えが入って来た時に、それが本当に神の前に正しいのかどうか？それを判断する力が私たちに必要なのです。それを為すためには、神のことばにしっかり立つことです。また同時に、神のことばに生きる人になりなさいと、そのことを20節から教えました。あなたは信仰者として「霊的成長を常に求めながら生きていきなさい」と。信仰が成長するために必要なのは、神が示してくださったそのみことばに従うことです。神のことばを实践することによってあなたの信仰は成長する、あなたは変えられて行くとユダは教えました。

二つ目に教えたことは、(2) 主のみこころが為されることを求めて祈る、あなたは祈りの人でありなさいと。示されたみこころが自分の願いと違ったとしても、そのみこころを喜んで受け入れて従う信仰者でありなさいということです。なぜなら、主のみこころこそが最善だからです。主の最善こそが本当の最善だとユダは教えました。三つ目に、(3) 神の愛のうちに自分自身を保ちなさい、あなたが主に仕えるときに大切なことは、どんなことをするかということよりも、どんな心で行うか？ということです。あなたが神のために為すことすべて、生活のすべてが神を愛するゆえに為しているかどうか？あなたの行動が神への愛が動機となって為されているかどうか？そのことをユダは私たちに教えました。そして、四つ目に(4) 主が与えてくださった希望の実現を切望すること、神がくださった希望はただ私たちに慰めるためだけではありません。神が約束されたことは必ずそうなります。私たちはイエス・キリストが再臨されることを信じています。そのように聖書が言っているからです。そのときに、私たちはこの罪のからだから解放されることを知っています。そのように聖書が言うからです。私たちは神を愛した者たち、すでに天に凱旋した者たちと再会し、永遠をともに過ごすことを信じています。そのように神が言われるからです。その希望は必ず実現します。その日を待望しながらこの日を生きていきなさいと。今日イエスにお会いするかもしれないと思って生きている人は、今日の歩みが変わるからです。今日が最後の日だと思うなら、今日をどのように生きるかを考えます。そのようにして歩みなさいと言うのです。

このように、私たちはこれまで四つのことを見て来ました。皆さん、恐らくこうして見ていくときあることに気付かれたでしょう。ユダはここで私たち信仰者の徳と言われている三つのこと、「信仰」「愛」「希望」について教えているということです。思い出しませんか？パウロがテサロニケの教会に手紙を送ったときに、パウロはテサロニケのクリスチャンたちの信仰の様子をよく知っていました。パウロは彼らのことを神の前に感謝し、彼らの信仰を称賛しています。Iテサロニケ1:3「絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」と、パウロはそれを思い起こすことによって神に感謝をささげていました。神の前にこのテサロニケのクリスチャンのことを喜んでいたので、「信仰と愛を希望」、パウロはこのことばをとっても愛していたようです。

コリントの教会に宛てた手紙の中でも、Iコリント13:13「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」と記しています。なぜ、テサロニケのクリスチャンたちの信仰が称賛されたのか？彼らの信仰が生きていたからです。主が私たちにくださった信仰は、もう皆さんは十分ご存じのように、生きた信仰です。その信仰は私たちを変えていく信仰です。私たちをよりイエス・キリストに似た者に変えていくその力をもった信仰です。だから、信仰者は変えられて行くのです。

また、私たちに与えられている愛も生きた愛です。神への愛も成長するし、その愛が人への愛を生み出していきます。私たちは神を受け入れたことによって、神の愛を知ったことによって、その愛をもって神を愛した人々を愛する人へと、神が私たちを変えていってくれるのです。そして、三つ目の「希望」も生きた「希望」であって、その希望が私たちの今の生活を変えていこうとします。

お分かりになったでしょう。パウロがテサロニケのクリスチャンたちのことを思うごとに神に感謝したのは、彼らの信仰は生きていて、日ごとに信仰者は成長し、その成長は周りの人たちが証をしているからです。ここでもユダは同じように「信仰者よ、あなたは自分の信仰が成長するように努めていきなさい。」、あなたの愛が成長するように、そして、あなたの希望があなたの歩みをしっかりサポートするようにと言います。このようにキリスト者自身が、いろいろな間違っただけの教えが入り込んで来た時代にあって、このような混沌とした中であって、しっかりと正しく歩いていくためにどうすればいいのかを教えているのです。

聖書を使っているけれども聖書的ではない教えが入り込んでいるこの時代にあって、私たちが学ばなければいけないことは、しっかり神のおことばに立って、みことばは何を言っているのかということによって、私たちが正しい判断をすることです。最初にユダが教えたことはそういうことです。あなたがしっかりと霊的な判断力をもって、正しいことを選択できるように、信仰において成長しなさい、信仰者として成長するようにと、ユダは愛する兄弟たちに教えるのです。

今日、私たちが見ていく22、23節はあなた自身がどのように生きていくかということから進んで、今度は、あなたが周りの人たちに対してどのように歩いていくのか、彼らに対してそのような責任を負っているのか、自分から周りの人たちへと目を向けさせるのです。

☆偽りの教師に惑わされることなく歩み続けるために＝この地上をどのように歩むのか？

## 5. 周りの人たちに対してどのように歩いていくのか

22、23節を見ますが、この箇所が教えていることを一言でいうなら「伝道」です。「1:22 疑いを抱く人々をあわれみ、23 火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。」とこのように書かれています。

さて、皆さんに質問ですが、私たちクリスチャンが主イエス・キリストから与えられた命令はたくさんありますが、一般的に「大命令」と言われているものがあります。主イエス・キリストの大命令とはいったい何でしょう？それは「弟子を作る」ということです。でも、ある人たちは勘違いをしています。その箇所を見ましょう。主イエス・キリストは十字架に架けられて亡くなり、三日目によみがえり、そして、弟子たちにお会いになったときにこんなことを話されました。マタイ28:18-20です。「1:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」、当然です。イエスは神ですから…。しかも、神であることは十字架だけでなく死からの復活によってそれは証明されました。「1:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」、見ていただきたいのは、この19-20節の中に六つの動詞があることです。「行って」「弟子としなさい」「バプテスマを授け」「命じておいた」「守るように」「教えなさい」と、そして、加えて最後の「います」です。この中でただ一つだけ命令形で書かれているのが「弟子としなさい」です。

ですから、大命令と言われていることは「弟子を作る」ということです。この「弟子作り」ということを聞いたときに、ある人は「それは福音を伝えることでしょうか」と言います。彼らの根拠となっているのはマルコの福音書16:15です。「それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」と。これが主の大命令でしょうかと、そのように言う人たちは次の16節のみことばを無視しているのです。16:16「信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。」、ここは少し誤解を生む箇所でもあります。「信じてバプテスマを受ける者は、救われます。」とあります。ということは、救われるための条件として、「信じて」と「バプテスマを受ける」の二つが挙げられていると、確かにそのように読み取れます。だから、多くの特に日本人からよく聞くことは、イエスを信じることで半分クリスチャンになって、バプテスマを受けることによって本当のクリスチャンになると、そのように言われる方が多くいます。結論は、この箇所はそのようなことを教えていないということです。

「信じること」、信仰のみが救いをいただく条件で、バプテスマではないということです。その二つの理由を言います。(1) 文脈がそのことを否定しています。16節の後半に「…しかし、信じない者は罪に定められます。」とあり、信じる者は救われて、信じない者は「罪に定められる」、つまり、救われない、さばかれるということです。見ていただくと、「信じる者」と「信じない者」を対比しています。「信じてバプテスマを受ける者」と「信じないでバプテスマを受けない者」とは記されていません。「信じる」か「信じない」かです。ですから、バプテスマが救いの条件だということはこの文脈からおかしいということになります。(2) 文法がそのことを明らかにします。「信じて」と「バプテスマを受ける」が接続詞でつながれています。このような文型はどこにでもあります。興味深いことは、この二つのことばの初めのことばにだけ冠詞が付いていることです。このような文型の場合は意味があります。最初のことばをより

詳しく説明するために後のことばが付いているのです。つまり、この箇所と言うなら、「信じること」、信じた人をより詳しく説明するために「バプテスマを受ける」ということが加えられているのです。文法的にこのような解釈になります。

ですから、ここでみことばが教えていることは、イエス・キリストを信じて救いに与った人、その人はバプテスマを受けるといことです。なぜなら、最初に見たように、神がくださる救いは生きています。私たちを新しく生まれ変わらせます。新しい心をくださる。その新しい心は新しい願いを私たちにもたらします。神に喜ばれたいという願いです。どうすればそれができるのか？神のみことばに従うことです。神の命令を守ることです。そうすると、バプテスマを受けるといことは救いを得るための条件ではありません。でも、「バプテスマを受けること」は主イエスご自身が命じておられることだから、私たちはそれに従います。バプテスマは自分の中に起こった神の救いのみわざを形をもって現わすことです。水の中に浸かりそこから出て来る、それは次のことを象徴するのです。「神に逆らって来た私はイエスとともに死んだ。そこから上がって来ることによって私はイエスとともによみがえったのです。」と、神の為にくださった救いのみわざをバプテスマの行為をもって明らかにしているのです。

ですから、バプテスマは救われたことを形をもって証する「証の行為」です。イエスを信じて喜んでいいる人は、このすばらしい救いを人々に伝えたいと思うし、知ってもらいたいと思うし、こんなすばらしい救いがあることをみなに分かってもらいたいと思います。ですから、この箇所が私たちに教えていることは、信じる者たち、信じて救いに与った者たち、彼らはバプテスマを受ける。それをもってその人が救われていることを証するということです。この「信じる」と「バプテスマを受ける」の動詞はどちらも単数形が使われています。なぜなら、信じることは個人の選択だからです。「みなでいっしょに信じる」ではなく、「あなたが信じる」のです。「救われます」は未来形が使われています。そういうことになればいいなあという希望ではなく、事実を述べるときにも未来形を使います。だから、イエスを信じる者には必ず救いが与えられる、そのことを教えているのです。

ですから、「大命令」はマタイの福音書を見てもマルコの福音書を見ても、「弟子を作る」ということです。そして、「弟子を作る」というのはイエスの福音を語ることです。そして、イエスを信じた人を助けて彼らの信仰が成長するように導いていくことです。ですから、22-23節は私たちに「あなたは弟子作りに励んでいますか？」と問いかけているのです。つまり、福音宣教に励んでいますか？兄弟姉妹たちの信仰の成長にあなたは努めていますか？と問われているのです。

22-23節からユダの教えを見ていきましょう。ユダはこの二つの節で三種類の人たちを例に挙げて、弟子作りのためのアドバイスを与えています。

#### ◎弟子作りに関して、三つのグループから 22-23節

「:22 疑いを抱く人々をあわれみ、:23 火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。」

1. 疑いを抱く人々 : 初めのグループは「疑いを持っている人たち」です。このことばには「疑って躊躇する」という意味があります。新約聖書に10回出て来ます。たとえば、ヤコブ書1:6には「ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。」とあります。ヤコブがなぜこのようなことを言ったのか？この前の5節に「神から知恵を求めなさい」ということが書かれているからです。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」と。何のための知恵でしょう？学校の成績が良くなるための知恵？ではなく、私たちに神のみこころを正しく見極める知恵が必要なのです。何が神に喜ばれるのか？そのことを見極める知恵です。

いろいろな選択の中で、何が神の前に正しいのか分からないことがあります。だから、知恵が必要だ、神に知恵を求めなさい、神がその知恵を与えてくれるからとヤコブは言ったのです。「ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。」と言います。必ず神が与えてくれるという確信をもって願いなさいと。でも、もし、あなたが疑っているならまさにそれは「風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。」と言います。周りの流れにすぐに影響を受けてしまう人たちのことです。いろいろな出来事に動揺してしまいます。しっかり根が張られていない状態です。

三種類の人たちが記されていると言いましたが、基本的にこの人たちは「救いに与っていない」人たちだと言えますが、この「疑いを抱く人々」だけはそうとも言えません。なぜなら、クリスチャンの中にもこのような人たちがいることは確かだからです。信仰の弱い人たちはいろいろな間違った教えによって惑わされてしまいます。教会の中に入り込んで来た者たちは16節にあるように「彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲望のままに歩んでいます。その口は大きなことを言い、利益のためにへつらって人をほめるのです。」と、好き勝手なことをしています。神のみこころに沿っていかうとしないで、自分たちの思いのままに生きようとしています。その生き方こそが神の前に正しいと言うのです。

しかも、彼らは聖書の知識を持っています。そうすると、ある人たちは「私たちもそのように生きていていいのだ」と惑わされるのです。もしかするとユダも、教会の中に入って来た偽りの教師たちによって確信がぐらついてしまったり、彼らの誤った教えに傾倒しかけている信仰者がいることを知っていたのかもしれませんが。ですから、「疑いを抱く人々をあわれみ」と記しています。偽りの教えによって惑わされてしまった人、混乱した状態にいる信仰者、そのような人たちを見ることができます。そのような人たちがいるなら「あなたにはこういう務めがあるのです。信仰者の皆さん！」とユダが言うのです。それは「彼らをあわれむこと」、あわれみを示すこと、愛と忍耐をもって彼らを導きなさいということです。誤った教えに染まってしまうがちな人々に対して、神の真理をもって彼らを正しい方向に導いてあげなさいと。そのためには、あわれみと愛と忍耐をもってそれを為していきなさいと言います。

そして、これが救いに与っていない人であるなら、疑いを抱いているというのは、恐らく、私たちが語る神の真理に対する疑いです。神の真理を聞いてもそれを正しいものとして受け入れようとしない。そういう人たちがたくさんいます。だから、その人たちに対しても、忍耐をもって愛をもって語っていきなさいと言うのです。

皆さん、私たちが伝道することにおいて大切なことは何でしょう？どのように語れば人々は納得するかと、私たちはそういうことに目を向けてしまいがちですが、私たちが救われたことを喜んでいたら、周りの人たちはその救いに関心を払うと思いませんか？結局、私たちがどう生きているかです。救われたことを喜び、このすばらしい唯一真の神を称えながら、感謝しながら生きているなら、それはすばらしい証になるのです。私たちはどのように語ったらいいのか、もちろん、それも大切なことです。でも、そのことばかりに関心がなくなって、自分がどのように生きているのかということがもしも疎かになってしまっているなら、その伝道は意味がありません。

ユダはずっと私たちが信仰者としてどのように生きていくのかを教えてくださいました。もし、私たちがそのように歩んでいるなら、間違いなく、私たちのことばだけでなく、生き方をもってこの救いがどれだけのすばらしいものか、この救い主がどれほどすばらしいかを人々に示すことになると思いませんか？いろんなことがあるけれど、それに対して私たちがいつも愚痴ばかり、文句ばかり言っているのではない、人の悪口ばかり言っているのではない、人をけなしてばかりいるのではない。神が喜ばれることを考えて口にしていたら、今のこんな希望のない世の中にあってすばらしい証がなされるでしょう。恐らく、ユダもそのことを十分分かっていたのでしょう。だから、先ず、あなたがどのように生きるのか、そして、人々にこのすばらしい主を示していきなさいと勧めるのです。

もし、相手がクリスチャンなら、愛と忍耐をもって彼らを導いてあげなさい、真理の道に導いてあげなさいと。救われていないのなら、真理を語って彼らを救いへと導いてあげなさいと言うのです。

## 2. 偽りに惑わされている人々

23節に「火の中からつかみ出して救い、」とあります。二つ目のグループは「偽りに惑わされている人々」です。先ほどの人は疑いを持っていたのです。でも、この人はもうすでに偽りの教えに惑わされてしまっているのです。それが真理だと思っているのです。火のことが書かれています。神の救いを拒み続けるなら、自分自身が自身の罪の精算をすることになります。そして、そのさばきは「永遠の火によるさばき」であると聖書が教えています。神に逆らう者たちが向かっているのは永遠の地獄、永遠の滅びだと、そのことをユダは今一度明らかにするのです。だから、私たちは彼らの過ちを明らかにして、その過ちに彼らが気付くように彼らに真理を語る必要があると言うのです。

「火の中からつかみ出して救い」とは特殊な表現です。「つかみ出して」とは「奪い取る、奪い去る」という意味を持ったことばです。恐らく、ユダが敢えてこのことばをここで使ったということは、イスラエルの歴史の中で起こった出来事からこのことばを引用したと言えるでしょう。旧約聖書の中にアモス書があります。アモス書4：11「わたしは、あなたがたをくつがえした。神がソドムとゴモラをくつがえしたように。あなたがたは炎の中から取り出された燃えさしのようであった。…」、「炎の中から取り出された」、「火の中からつかみ出された」、同じ表現です。この11節の最後には「それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」ということばがあります。この4章を見ると、このことばは6節にも、8節、9節、10節にも繰り返されています。なぜ、こんなことを預言者アモスが言ったのか？

悲しいことに、イスラエルの民は神以外のものに関心を払っていたのです。恐らく、経済的な繁栄でしょう。それらに彼らに関心があつたのです。神ではなかったのです。神によって選ばれたこの民、神が特別にあわれんでくださったこの民は、その神を忘れてそれ以外のものに目を向けていたのです。ですから、神は繰り返して彼らに警告を与えました。ところが、彼らはその警告を受けていながら神に逆らうということを止めなかったのです。6節に「わたしもまた、あなたがたのあらゆる町で、あなたがたの歯をきれいにしておき、あなたがたのすべての場所で、パンに欠乏させた。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」とあります。神の懲らしめ、神のさばきです。飢餓があつたのです。

食料が不足したということです。なぜ、神はそんなことをなさったか？それを通してこのイスラエルが神の前に罪を悔い改めて神に立ち返るためです。彼らは気付くはずだったのです。このようなことが自分たちの身に起こるのは神からの警告であり、我々の罪が原因だということに…。

でも、彼らはそれに気付かなかった。7、8節には「:7 わたしはまた、刈り入れまでなお三か月あるのに、あなたがたには雨をとどめ、一つの町には雨を降らせ、他の町には雨を降らせなかった。一つの畑には雨が降り、雨の降らなかった他の畑はかわききった。」、刈り入れまでの3か月は雨が必要なのです。この時にある畑には雨が降ったけれど自分たちのところには降らなかったのです。本来なら、イスラエルは気付くはずだったのです。これは神が私たちに警告されている、自分たちの罪を悔い改めなければならぬと、そのメッセージを彼らは受け取らなければいけなかったのです。でも、彼らはそのようにしません。「:8 二、三の町は水を飲むために一つの町によろめいて行ったが、満ち足りることはなかった。」と、干ばつによって神は彼らにメッセージを与えるのです、「罪を悔い改めなさい」と。でも、彼らはそれをしなかった。ですから、「:それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」と書かれています。

9節には壊滅的な農作物の被害のことが書かれています。彼らの農作物が大変な被害を受けるのです。「わたしは立ち枯れと黒穂病で、あなたがたを打った。あなたがたの果樹園とぶどう畑、いちじくの木とオリーブの木がふえても、かみつくいなごが食い荒らした。」と大変な被害を受けるわけです。「それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」、10節「わたしは、エジプトにしたように、疫病をあなたがたに送り、剣であなたがたの若者たちを殺し、あなたがたの馬を奪い去り、あなたがたの陣営に悪臭を上らせ、あなたがたの鼻をつかした。」、何が起こったのか？戦火によって戦渦を被るのです。そして、壊滅的な敗北を経験したのです。いくさに敗れたということです。疫病が訪れ戦いにも破れる。本来なら彼らは自分たちの罪に気付くはずでした。自分たちの罪がこのようなものをもたらしたのだと。でも、そのようなことにならなかったのです。だから、10節の終わりにも「それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」と書かれています。

そして、初めに見た11節です。「わたしは、あなたがたをくつがえした。神がソドムとゴモラをくつがえしたように。あなたがたは炎の中から取り出された燃えさしのようにであった。」、炎によって壊滅的な状態に置かれてしまうのです。「それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】の御告げ——」と。なぜ、彼らはこんなことを経験したのか？先ほども話したように、彼らは神の命令に従わなかったからです。イスラエルの民は神の約束された約束の地に入ろうとします。古い民は死に絶えて、そして、新しい民がこれからまさに新しい地に入って行こうとするその時にモーセは告げるのです。申命記28:15「もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声に聞き従わず、私が、きょう、命じる主のすべての命令とおきてとを守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたはのろわれる。」と。そして、この預言は成就するのです。

アモスはイスラエルのことを「炎の中から取り出された燃えさしのようにであった」と言いました。なぜ、このような表現を使ったのか？神の大変厳しさばかりがあったからです。でも皆さん、そこに未だ神のあわれみがあるのです。救いに関しても未だわずかなチャンスが残っているからです。ソドムとゴモラのことがこのみことばの中に記されていました。そのときのことを思い出すとこういうことでした。創世記19:15-16節、神が、それは御使いですが、ロトのところに現われて「:15…さあ立って、あなたの妻と、ここにいるふたりの娘たちを連れて行きなさい。さもないと、あなたはこの町の咎のために滅ぼし尽くされてしまおう。」と告げます。そのときロトは「はい、分かりました」と言ったか？16節「しかし彼はためらっていた。すると、その人たちは彼の手と彼の妻の手と、ふたりの娘の手をつかんだ。」と、まさに同じことを言うのです。神がロトとその家族をそこからつかんで滅びから連れ出したと。「——【主】の彼に対するあわれみによる。そして彼らを連れ出し、町の外に置いた。」

ですから、ユダはここで、確かにそのような教えに信奉している人たちがいる。完全に惑わされている人たちがいる。彼らは今その永遠の滅びへと向かっている。あなたがたが彼らに真理を語ることで彼らとその滅びから救い出すことができる。まさにあのロトに起こったように、イスラエルの民に神が臨まれたように…。だから、しっかりと福音を語り続けなさい。未だ救いのチャンスがあるから。いつまでか分からないけれど、少なくとも、この日そのチャンスが与えられていると言うのです。

大丈夫ですか、あなたの愛する家族は？彼らは分かっているのです。でも、あなたは分かっています。彼らがどこに向かっているのかを。今、未だチャンスがあるうちに私たちは彼らにこのみことばを語り続けていくことです。

### 3. 偽りに立っている人々

23節の続きに「またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。」とあります。初めに私たちが見たのは「疑いを持っている人々」です。その教えによって惑わされている人たちです。二つ目の人たちはその「偽りに惑わされてしまっている人々」です。そして、三

種類目の人たちはその次元を越えて、今度は「偽りに立っている人々」です。この人たちは偽りを語っているのです。「またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、」とありますが、この「あわれみ」は22節と同じことばが使われています。対象がだれであっても私たちは彼らに対して愛を示すこと、忍耐をもって福音を語ることが必要だと言うのです。

ただし、この最後の人に関しては「恐れを感じながら」ということばが付け加えられています。このことばは「恐れをもって、恐れながら」という意味がありますが、この箇所で言われていることは「注意を払いながら、用心しながら」ということです。なぜ用心するのか？あなたがそれに巻き込まれてしまう可能性があるからです。また、「汚された」ということばがあります。これは完了形です。ということは、ある過程を経てここにたどり着いた、そのたどり着いた状況や結果を強調するのです。恐らく、彼らも最初はそうではなかったのです。でも、惑わされてそれを信じるようになり、確信を持つようになり、そして、それを語るようになったのです。その域まで達している様子です。偽りの教えを確信を持って信じそれを教えている人たちです。そういう人たちに対する伝道は「恐れを感じながら、注意を払いながら為しなさい。」と言うのです。

確かに、いろいろな人たちがいます。私たちがすることは、対象がだれであったとしても神のことばを語るのです。皆さんの家を「聖書を学びましょう」と言って訪問して来る人たちがいます。私にもアメリカにいたときもグアムにいたときも来たり、日本にいるときも、今も来ます。私はそれを結構楽しみにしています。いろいろなことを質問できるからです。もちろん、自分が何かということはいません。「ただ聖書の箇所にかうあるではないですか。あなたたちはイエス・キリストを神でないと言っている。でもこの聖書の箇所はどうですか？あの人にはこんなことを言っていましたね。」と聖書の箇所を引用しながら言うと、おもしろいことに、アメリカでもグアムでもこの大阪でもそれ以外の所でも、必ず彼らは「もう少し勉強してまた来てもいいですか？」と言われます。「どうぞ来てください」と言いますが、一度も来たことがありません。

私たちが真理を語る時に彼らは答えることができないのです。なぜなら、みことばはちゃんと私たちに真理を教えてくれているからです。イエス・キリストは間違いなく神です。私たちはその真理を知っているからその真理を語るができます。ただし、注意してやりなさいと言います。もしかすると、このようなケースの時は教会の中で霊的な信者にアドバイスを求めてすることが賢明かもしれません。でも、私たちはだからといって、彼らを忌み嫌うのではないということです。忌み嫌うのは別のことです。

その後を見てください。「肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。」と書かれています。ユダはここで彼らの危険性を教えるのです。「忌み嫌いなさい」というのは「憎む、嫌悪する」ということです。嫌悪するのは「下着」だと書かれています。なぜなら、それは肉によって汚されているからだ、この聖書の箇所は言います。この「汚された」というのは、「毒物や不純物などで汚染されている、汚されている、不潔にしている」という意味です。つまり、彼らも持っているその偽りの教えのことです。それはまさに毒のようなものです。敢えて、ユダがこんな表現を使ったのは私たちが分かるようにです。汚れた下着と清潔なものとは一緒にしません。汚れたものは別にします。遠ざけようとします。だから、彼らの誤った教えも同様に扱うようにと言うのです。ここに「肉によって汚されたその下着さえも」とあります。ですから、それは教えだけでなく、神の前に汚れているすべてのものを同様に扱うように言うのです。

私たちはその教えを憎みます。神の真理に反する誤った教えを憎みます。でも、その教えを持っている人たち、語っている人たちはその教えに騙されているのです。だから、あわれみを示すのです。少なくとも、私たちができることはそのような人たちのために祈ることです。彼らの目が開かれて真理に至るようにと祈ります。感謝なことに、私たちのうちに神が働いてくださったから、私たちは真理を見ることができて、そして、救いに与りました。

私たちはこの地上にあって「弟子を作れ」と言われました。イエス・キリストのこの救いのメッセージを語るものとして我々は生きているのです。真理に背を向け続けている人たちに対する私たちの働きかけは未だ終わっていません。この伝道の働きは終わっていないのです。神の助けをいただきながらあわれみの心をもってその働きを継続することです。ギブアップしてはいけません。諦めてはいけません。祈りをもってこの福音を語り続けていくことです。神が「これまで」と言われるその時まで。

同時に、私たちは地上にいて、兄弟姉妹たちの信仰の成長のために努めていくことです。信仰が弱ってしまっている人たちの彼らの信仰を励ますという、彼らを助けていくという働きは終わっていません。パウロが言うようにローマ14：19「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」と、いっしょに成長しようということ。いっしょに神にあって成長しよう。また、1テサロニケ5：11でも「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」、今している通り、互いに励まし合い、互いに徳を高め合っている

きなさいと言います。あなたもだれかを励ますことができるのです。そして、励ますことによってあなた自身が励まされるのです。私たちはそのためにこうして一つにされているのです。

「弟子を作りなさい」、これが主の大命令です。その働きをしっかりとやりなさいと。同時に、偽りの教えへの警告、これは終わることはありません。しっかりとそのような間違った教えに対して私たちは警戒をすることです。私たちの教会としても、そのようなものが出て来たときには、なぜそれが聖書的におかしいのかということを見なでともに学び合うことです。そうしてしっかりと自分自身で自分を守っていくのです。

こうして、ユダは愛する者たちへの勧めをここで閉じるわけです。どうか、そのメッセージをしっかりと覚えて、神は私に何を望んでいるのか、そのことをあなたご自身でお考えになって「弟子作り」という命令を神の助けをいただきながら、この一週間も行ない続けてください。このすばらしい救いに与ってなくて永遠の滅びに向かっている人たちは我々の周りに溢れています。偽りによって惑わされている信者が我々の周りに溢れています。「あなたが出て行きなさい」と、どうぞ、その働きを主の助けをいただきながら行ってください。